

損害保険ジャパン日本興亜株式会社 様



日立のHCIとVMware Horizonで仮想デスクトップを刷新 働き方改革に向けた利便性とセキュリティ強化を高度に両立

SOMPOグループの中核会社として、顧客の安心・安全・健康に資する幅広い事業領域にチャレンジし続ける損害保険ジャパン日本興亜（以下、損保ジャパン日本興亜）。同社では、保険会社間の競争激化への対応と、働き方改革を進める上での従業員の利便性向上、さらなるセキュリティ強化を実現するため、シンクライアント環境「SOMPOライン」に、「VMware Horizon」と「日立HCIソリューション for VMware vSAN」を採用しました。2万3000ユーザーを対象とした仮想デスクトップ環境の整備により、高効率かつ柔軟なテレワークの実現と攻めの経営戦略を加速させています。

導入環境（日立のHCIソリューション）

- ・日立ハイパーコンバージドインフラストラクチャ（HCI）ソリューション for VMware vSAN
- ・Hitachi Virtual Storage Platform (VSP) ・VMware Horizon®

導入前の課題 デジタル変革に向けた新たな仮想デスクトップ基盤が不可欠に

現在、損保ジャパン日本興亜では時間や場所にとらわれない柔軟な働き方を
実現する「ワークスタイルイノベーション」を推進しています。

「現在、損保業界は激動の時代を迎えています。こうした市場の変化にいち早く対応していくためには、今まで以上に多様な人材が活躍できる環境や、生産性を高めるITインフラを用意し、新たな発想やサービスを迅速に創出していかねばなりません」と同社の遠山 岳志氏は語ります。

それを支えるITインフラとして、同社は損保業界に先駆けて2013年から仮想デスクトップによるシンクライアント環境を導入。営業現場へのセキュアなノートPCの持ち出しや、BCP（事業継続計画）への対応、ITガバナンスや運用コストにも配慮したテレワーク環境を整備してきました。さらに、2015年からは老朽化・複雑化したシステム基盤・構造を刷新する「未来革新プロジェクト」も立ち上げ、全社を挙げたオフィスインフラ改革を積極的に推進しています。

「こうしたオフィスインフラの中核を担うのが仮想デスクトップです。しかしシス

テムの老朽化により、新しいシステム環境への移行が必要となりました。それに合わせて、デジタル変革をより推進できる性能やセキュリティの強化、運用負担の軽減といった改善も図ることにしたのです」と同社の雪吹 泰伸氏は説明します。

また仮想デスクトップの実現方式がSBC (Server Based Computing) だったため、ユーザー独自のアプリケーションが柔軟に利用できず、特定部門からの要求に応えられなかったことや、消費リソース増加に伴うシステム性能の低下なども課題となっていました。

「システム性能の低下は、スケーラビリティとも直結する課題でした。ユーザー数の増加に応じてスケールアウトしたいと考えても、SBC方式は、まず大きなストレージを追加して、まとまったユーザー数単位で増やすことしかできません。どうしても予算的なハードルが高くなっていたのです」と、同社の小林 真郁氏は語ります。

選定した理由 日立製作所とVMEウェアの組み合わせが最良の選択と確信

こうした要件を踏まえた損保ジャパン日本興亜のRFP（提案依頼書）に4社が手を挙げ、最終的なパートナーに選ばれたのが、日立製作所（以下、日立）とVMEウェアです。

「日立を選んだのは、他社にはない優れた提案内容に加え、VMware製品の構築実績が豊富で、両社が非常に強固なパートナーシップを結んでいることも高く評価したからです」と、遠山氏は語ります。

評価された日立の提案の1つが、スケーラビリティとコストの最適化を実現する「日立HCIソリューション for VMware vSAN」とフラッシュストレージのハイブリッド構成です（図）。

組織改編などでユーザー数が急増する場合も、IAサーバに搭載されたSSD/HDDをソフトウェア機能によって統合・制御するHCI (Hyper-

Converged Infrastructure) なら、ノード増設を最適なコストでリニアに拡張することができます。

さらに日立は、OSやアプリケーションといったシステム領域はHCI、プロファイルや作成したデータの格納はフラッシュストレージに振り分けることで、仮想デスクトップにおけるアプリケーションとデータ量の増加に対するシステム全体での投資の最適化を提案。これも損保ジャパン日本興亜に高く評価されました。

IT企画部は新仮想デスクトップ基盤の構築に先立ち、社内各部署から入念なヒアリングを行った後、2018年11月から、日立とVMEウェアとの3社協働によるシステム構築に着手。翌2019年7月より、従業員約2万3000ユーザーが利用するVDI方式による仮想デスクトップ基盤「SOMPOライン」の稼働が段階的に開始され、同9月に全国展開が完了しています。



損害保険ジャパン日本興亜株式会社
IT企画部 企画グループ グループリーダー
遠山 岳志 氏



損害保険ジャパン日本興亜株式会社
IT企画部 企画グループ 特命課長
雪吹 泰伸 氏



損害保険ジャパン日本興亜株式会社
IT企画部 計画推進グループ 課長代理
小林 真郁 氏



SOMPOシステムズ株式会社
ITシステム本部 リーダー
明田川 裕史 氏



SOMPOシステムズ株式会社
ITシステム本部
里見 智徳 氏

